Oct. 1891
no. 285

女學雜誌

第二百八十五號
明治二十四年十月三日發兌

書感　中島俊子

女學史料
(一) はしかき
(二) 日本第一の歴史は女の口より出づ
(三) 稗田の阿禮

禁酒　社説

下六番町六番地　女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 285. October 3rd. 1891.

EDITORIAL:— The Temperance Army.

THOUGHTS AND FANCIES: Readings (Mrs. Nakajima) The Great Man. (Hōsunshi.)

MISSCELLANIES: Miss Willard's Sayings. Chinese Women. Ought Illegitimate Children to be Received at the Orphan Asylum? A Study on Womanhood.

CHILDREN'S COLUMN: "Little Lord Fauntleroy." (A Translation.)

NOVEL:—"Kunō no Kusari." (A Chain of Woe.)

CRITICAL NOTES.

NOTES AND NEWS.

第二百八十五號目次

●社說 禁酒軍

●隨感 讀書(中島俊子)〇偉丈夫(方寸子)

●雜錄 ウィラード女史家庭教則〇支那の婦人〇孤兒院に私生の子を請べき乎〇日本女學史料

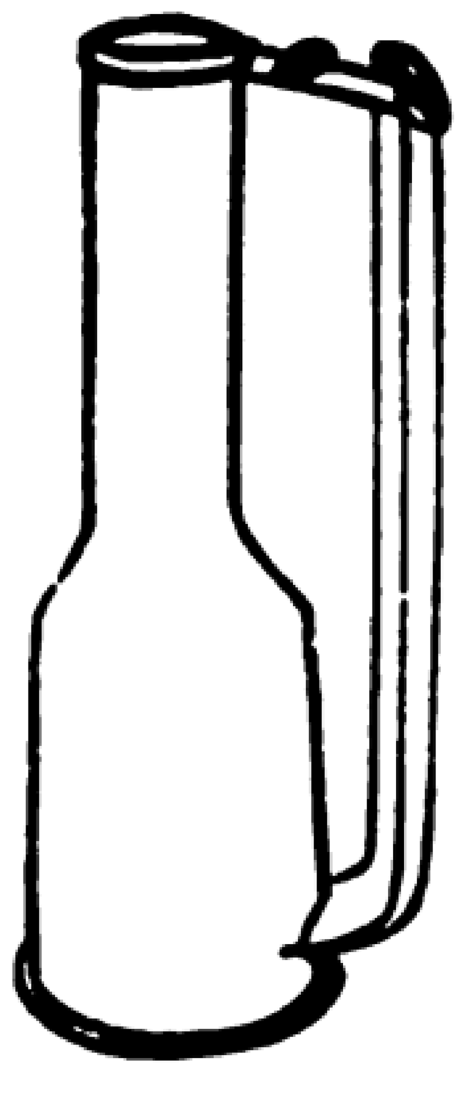
●兒籃 小公子(若松しづ子)

●小說 苦惱の鎖(ひさご)(うき世)

●批評 聖武天皇●新式一覽〇淑女鏡〇作者同情社茶業〇民知文字●新著封來

●時事 山口の演說〇廢娼事〇ガバーネス〇婦女子の不徳さ職業〇亡兄の遺妻〇村芝居〇小學修身書〇議會に於ける沈默

新發明品 **手桶湯わかしの廣告** (專賣特許願中)



一家の經濟は細かき所ろに用心して、些細の事を大切にするにあり、古しへより儉約せずして家の富みたる例し曾て有らず。扱て、此の儉約を爲さんには、家の內の用事を成べく簡略にして、無用の手を省き、無用の費を惜しむにあり。儉約は、富を生ずるのみならず、勉強を生じ、人々心はげみて皆々面白くなり、一家相樂しみて春風の心地よきが如くなるものなり。一家の經濟に心を着くるは、家を富まし、家を樂しくし、家を樂園の如きホームと爲すものなり。

此主意を以て、吾社はホームを美しくするとに樣々心を碎き多年、女學教育の上よりして之を試ろみたれど、亦以て一家內の實際の改良を促かすとの大切なるを感じ、先づ家具を簡便にして、細君の勞を省き、臺所元の入用を少くするの方法を工夫せんとす。

扱て第一に工夫したるは、手桶湯わかしなり。此は手桶の中に湯わかしを入れ、僅かの炭火にて二十分間に之を熱湯にわかすの法とす。器具は至つて簡便なるものにて圖に示すが如し。手桶にても、水がめにても、盥にても、風呂にても皆な用ゆべけれど、夏向き行水などに使はんにも、手桶に投げ込み置き、二十分にて湧きたるを一杯用ひ、更に第二の手桶に投げ入れて、又の二十分間に更に熱湯を得ば、至極重寶ならんと思ひ付き、假りに「手桶湯わかし」と名づく。目下專賣特許願中ゆへ、遠からず免許あるべし、左れど時節がら一日も早く入用の品と思ひ、八月一日より賣出したり。代價は銅製にて一個一圓五十錢とす。更らに追々工夫して廉價にて出來上るやうにすべし。

各地方にても配達運輸すべし

東京麹町區下六番町六番地 **女學雜誌社家具部**

女學雜誌　第二百八十五號　明治二十四年十月三日發兌

社說

禁酒軍

酒に害ありと云ふとは、極めて近き年の心づきなり。昔には、之を害とするものゝ稀なるのみか、反りて之を百藥の長、歡樂の媒となすもの多く、憂ひあるときは此の玉箒にて拂ひ除き、和らがざるときは此の甘蜜を啜りて腹を洗はんとて、人世社交の上に又たなきものと珍重せられたり。左なきだに、古今不遇の傑士、往々にして酒に隠れ、不平鬱悶の情ろを辛くも醉酊不覺の中に散らせしかば、之に摸せんとて只其外形に倣ひ、樽を傾むけ、瓶子を盡くすを以て豪傑の第一要素と心得たるものあり。斯て、酒は人の英雄たるに欠く可らざるものとなりぬ。

東洋風の豪傑は、未開國の親方の如し、少節に局促せずと誇るは、竊盗を自慢するに同じと論ろふものあり。此論次第に行はれ、飲酒と云との餘り見事にあらざるとを知り初めたり。

夫れ酒の害多きや、數へ盡くすと能わず。只だ其主なるもの三四を擧るとも、既に心あるものをして戰栗せしむるに足らん。津田仙君、平易實際の文を以て、酒の害の說を綴り、酒が身躰の上に及ぼす怖るべき大毒を明示したり。之を讀みて愕然、醉夢忽まち覺めて、斷然禁酒したる人引も切らず。吾人が身躰上に及ぼす酒の害を明かにせんとするに當りては、先づ此の小冊子を讀者に推宜するに若かず。

然るに、酒の害あるは、人の身躰に及ぼすべき影響の故のみに非ず。人は之が爲に放埒に流れ、精力の過半を損失す。而して其殘餘衰乏の力を以て働らきたる工錢は、過半亦た之を酒に費やし去る。妻子飢に泣けども獨り飲み、老親寒に凍ゆれども醉ふて温かしとなす、室家團欒の樂しみは夢にだも想ふとなし、其結果する所の如何に恐るべきやは、蓋し想像外に出づ。而して、其影響は、現世に關するのみならず、永く后世に至る迄に及ぶ。

歐人の酒に酖るは、米人に越ゆ。左れど米人の酒毒を憂むるは、歐人に劣るとなし。米洲合衆國の有識者は云はく、此の共和國を破らんものは、移住民問題にあらずば、必らず、酒

害なりと。蓋し、西洋の酒は日本の酒よりも強烈なり、其害和酒の比ひにあらざれば也。

陶然として酔ひ、快活して樂しむは、淺からぬ幸福あるものゝ如し。然れども、酒は到底此度合に止まると能はざるなり。前年人ありて節酒會なるものを設立せり、左れど酒を節するとの難きは、之を禁ずるの難きよりも難し。之を節して其度合を程好くせんとを欲するは、到底夢中の計畫に同じ。

酒は節すると能はざるものなり。而して、洋酒の輸入すると年々に増加す、此増加は法令を以て制すると能はざるものなり。況んや、一と度び、洋酒を味ひたるものは、復た其味を忘るゝと能はず、之を欲望するの嗜み、酒力弱き日本酒と同日の格にあらず。加ふるに、勞力界の制限彌よ定まり、勞働日ましに難きを覺ゆるに至れば、酒に慣れたる徒の酒を欲するの熱彌よ熾んなるべし。斯て、洋酒の輸入大に増加し、果は之を內國にて製造するものも益々増加し、嚴酷強烈なる洋酒を以て溢るゝに至らんには、酒害の恐るべきと今日に幾層か倍せん。憂ひあるの人、須らく此の前途の大憂を憂ひとすべし。

取分け酒の惡むべきは、其の人の意思を弱くして、堂々たる人類を包圍の奴隷となすの主點にあり。夫れ、悲しみは幸の胚にして、憂ひは大ひに考ふるの料となるものなり。人若し策を失なつて此の悲憂の地に陷いらば、端然正坐、痛しみて自然の罰の教ゆる所ろを聞くべし。此時に當り、酒氣を以て悲憂を消し、酔ふて僅かに良心の刺激を忘れんとするは、卑劣之より太甚しきはなし。幽靈もし出では、科學者は之を研究するとを樂しみとすべし、悪魔もし出では、神學者は之に說法するとを樂しみとすべし、もし困苦艱難われに迫り來れば、勇者は、詳らかに其顏色姿樣を察して沈着之に對するの處置を計るべし、膽を据へ、心を研き、靈を進ましむるの方之より善きはなし。悲しひ哉、人、包圍の切迫するに面を合はすと能わず、良心の語る所ろに靜かに耳を欹つると能はず、酔ふて半死の間だに此の極めて嚴肅なる時機を經過せんとす。何等薄弱の意思ぞ、人は之れよりして、益々包圍の奴隷となる。

故に、禁酒事業の運動は、人の身と心と家とを救ふものなり。啻に生理上、經濟上に關するのみならず、其靈性の上へに關

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

す。而して、啻に現世の人を救ふのみならず、併せて來世の人を救ふもの也。

禁酒運動の希望は可し、然れども、其運動は到底成効すべきもの乎とは、識者が往々疑がつて考ふる所ろのものなりとす。本月の北米評論に、四大醫博士が、此問題に對する答論を掲げ、其事の遂に學術的に成効すべきことを論定したり。ドクトル、カーペンター、飲酒者の因縁を解いて云く、大酒酩酊を欲望するに至るに六の元因あり、

一は、遺傳なり。

二は、過勞憂鬱等により腦に刺激を與へ、自制力を失ひたると、並びに腦の疲勞により刺激力を要むるとによる。

三は、直接又は間接に、腦又神經系を害し若くは病ましめたるによる。

四は、女性に於て婦人病の關係より腦を勞らし、大ひに刺激物を求むることあるによる。

五は、友なく、親戚なくして、寥寂たるにより、精神身體の力を弱くしたるによる。

六は、年配の度により、腦に變動を起したるによる。

ドクトル、クローサー又云く、

飲酒者の由來を考ふるに、其親大酒飲なりしか、狂氣者なりしか、肺病又は中風なりしかに歸するもの六割、疾病事故ありたるのち飲用するに至りたる者二割、腦神經の病に由りたる明證あるもの一割、不健康欠滋養に關するもの五分、其他の事情よりするもの若干と。

飲酒の元因如此なれば、飲酒は癖のみにはあらず、寧ろ一種の病なりとして、病を醫するの法を以て之れを治むべしと云ふものあり。所謂る、飲酒者病院なるもの、三十年前ニウヨーク府ビングハムトンに開かれ、現今之に倣ふ所ろのもの全世界に百を以て數ふに至りぬ。而して其成蹟を通考するに、入院の三分一は大抵全治したりと云ふ。

然りと雖ども、飲酒の大元因は、習癖にあると疑ふ可らず。たとひ遺傳よりすと云ふと雖ども、遺傳は亦是れ一種の癖たるに過ぎざる也。而して此の癖を除かんには、外より之を制するに若ず。藥を施こして、之を治めんとするは、飲酒の因縁を考へざるものなり、之を節して漸やくに禁ぜんとするも亦た其拙きことを同ふす。

外より之を制するに種々の途あり、國家斷然令して酒類の賣買を禁ずるか若くは宗敎上の制裁によりて之を敎ゆるを最とも力ありとし、人を監し、もしくは牢し、もしくは入院せしめ、若くは相盟約せしめ、以て之を制するを其次とし、酒の害を細かに說き聞かせ、惕然として怖れ恐つて自ら禁ずるに至らしむるを、更に其次とす。今日に於て、先づ行はる可き所ろのものは、宗敎上の制裁に與かる事、盟約する事、及び其害の解說を廣告するなど則はち是れなり。日本の酒害は、西洋諸國に比して尙少なきものあり、今に於て早く其害を防がば、成功至難なりとせず、此時に當りて狐疑し、敵に資を假して惡魔の力いよ〱跋扈するに至らば、大河一と度び汎濫して之を治むるとの至つて難きが若けん。禁酒運動の尤とも盡力すべきは實に今日にあるなり。

而して、今日の第一着手は、先づ輿論を警醒するにあり、輿論は狂醉して尙ほ酒は百藥の長なりと云へり、何を以てか其害を知らん、日本今日の禁酒運動は先づ絕叫又絕叫するにあるべき也。

隨感

昔感

中島俊子

二週以前の金曜日の事なりき早起窓を推せば庭前の碧梧葉水以て拭し如く、一盆の石菖尖針露珠を貫き、數羅の胡枝花紫雲を凝らし、竹枝のあらん限り登り盡すもまた足らず顏に開く紅の牽牛花、犬の狼藉に任して恨み色なく折れたまゝ笑む野菊、眼に觸れて皆心地よし、暫く徜徉四五種の草花をとり來て、一應をとゝめぬ机邊の小花瓶に挿み、朝食前潔とく書を極りだけよみ、飯後此一日の仕事を机邊に運べり、悠がぬ書信は金曜日に認たむを例と爲せば此日も送るべきの書八本あり其中多くは其失意者に對しての勵し慰じ難き依賴に對しての斷り、哀しきに陷りしに對しての慰め等にして、目出度事は殆どあるなし、この認むべき手紙の外には處々より送り來りし雜誌類この雜誌類を讀むに當て何かの感起れば記さん爲めの控本、又これらの事に倦みし後發人をして冬寒からざらしめんとて編かけし靴足袋も隠れて机の下に臥し其他暑中旅行記の末だ終に至らざるものも机の一隅を占む今夕燭を點する

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ところまでには何もかも遂ぐる筈にて机に對し三本の手紙認ためしとき俄かに天板より物の落ちしかと感ずる如くあつて眼眩らみたり頃くあつて頭痛み熱發り蒲團の上に轉々たる事數刻鼓動最も急今一層烈しくば心臓の破裂するに非ずや杯家人の心配不一方自も餘り苦しきまゝ若やと危む程なり、待に間なく夜も東天漸く白みたり、窓を靜かに明け放しめたれは、昨夕は何れに臥せしか覺ぬ位なりしが朝の空氣の清鮮なると共に病も少しく輕みたり、四方を見れば一日の仕事を載せある机の傍にてありしこたびは幸に快復するならんがいつかは心殘りの仕事を其儘にして知らさる鄕に旅する事かと思ては平素健康の日を空しく過ぐる事の最も惜しきを感じたり

偉丈夫

在故山　方す子

孤情寂々

世は狠の如く囂々として利慾に狂し、人は豕の如く擾々として煩惱に濁れり。日に〳〵生れ、月に〳〵長じ來る幾万の人の子、喩へば牛馬の知らずして屠場に引かるゝが如く、徐々愴蹶として下界に俗殺せられ行くを見る、心あらんもの、誰れか愕然として此慘憺の世相に驚かざらんや。驚ろき身を挺して救はんとすれば、己が立脚の地盤くづれかゝりて見る〳〵同に下界に引込まれんとはす。斯くて弱きもの陷りて遂に復へらず、强きもの逃れ來つて冷腸の木石と化す。若し夫れ、天道を長こみて凡俗と濁らず、人情を重んじて冷腸に澄ませず、敢て斷々として道を行ひ、悠乎として世を益せんことを欲す、扨ては、知己何處に在る、同志何處に在る。

昔し孔子、千歳の偉徳を以て、天下を教化せんとしたり。中道にして雄圖空しく容れられず、彼れ慨然として嘆じて曰はく、道行はれず桴に乘りて海に浮ばんと。顧れば、四面漠々として同情を寄せくるゝに物なく、天地唯だ壯嚴にして悠々たるのみ。嗚呼、唯れか偉人の衷心を知らん。彼れ故國にて於て知己を有せず、當世にあつて同志を見出さず、世を懸つて知らざるの境界に、超然として其の獨自一己を守る、孤情果して如何。諺ふものあり、

見渡せば花も紅葉もなかりけり
うらのとまやの秋の夕ぐれ

と。これ豈に寂寥の心情のみとせんや。

天外の居住

孔子の世に立てる、如何に寂びしかりし哉。されど彼れ、人事の風波に動かさるゝことなく、敢て諤々乎として門弟子を教へらく、徳孤ならず必らず隣りありと。此の驚ろくべきの信念、何處より來れる。彼れ何を以て自ら慰め、何を以て自ら勵ましたる。大リヴァ、ゴルドスミス、悠然として「田舍牧師」中に吟じて云はく、

"But all his serious thoughts had rest in heaven,
As some tall cliff that lift its awful form,
Swell from the vale, of mi lway leaves the storm,
Though round its breast the rolling clouds are spread,
Eternal sunshine settles on its head."

と。かの窮峰の巍嶷として天外に聳ゆるを見よ。雷雨、山麓に轟ろき、雲霧、中腹に暴るゝも、山嶺に於ては、赫々たる天光、悠久として輝く也。偉人の世に卓立する、亦た如此きか。落膽の雲霧、如何に暴るゝも、叱咤の雷雨、如何に轟ろくも、彼れは只だ毅然として進むあるを知る。若し夫れ、彼れが胸中を叩けば樂情滾々として、盡きざる、慰藉これより溢る、若し夫れ、彼れが頭腦に耳傾くれば信念鬱勃として、陷りなきの獎勵こゝより迸しる。アゝ、偉人の悠々として安んじ、斷乎として進む、豈に怪しむに足らんや。彼が身は地に在るも、心は常に天に交る。彼れは實に世の人にあらずして、天に住するの人也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

秘密の進歩

われ古今の偉人を追想するや切々、常に其の秀抜の偉質に感じて、而かも亦た、彼等の立身に潜心せずんばあらず。彼等昔し實在せりとせば、われ今彼等の如く成り得ざらんや。偉人境遇を制せりや、彼れらも人、われも人に非ずや。境遇偉人を作れるか、されど、彼等に存したる幾倍の證跡を見出さず。扨ては偉人何の天稟に由りて立身し、われ何の不肖斯くは無為なる。

常に自問して、未だ滿足の自答を得ず。遂に偉人歴史上の事實は、只にわれを奮發せしむるの媒介に過ぎず、内界信じたる意志の自由説は、僅かにわれを自暴せしむるの好比喩となり了せんとせり。嗚呼、偉人よ、汝ちが立身の由來は如何に。

暫らく罪の樂しみを享けんよりは、寧ろ神の民と共に患難を受けんことを善とし、クリストの為に受くる誹謗は、エヂプトの貨財よりも貴としとせし偉人モーセ、何故に斯くは思惟せる。クリストの愛しみより我儕を離らせん者は誰ぞや、患難なるか、或は困苦みか、迫害か、飢餓か、裸裎か、危險さか、刀劍なる乎とせし傑士パウロ、如何にして斯くは斷信したる。彼のモーセ、此のパウロ、皆凡俗知り得ざる秘密の世界を有したればなり。苟くも天道を踏みて、一度び其の霊妙の趣味を味ひたらん者、誰れか全世界を得るとも、此の一眞心を喪つべけんや。

篤し天道を信じ毅然として世に立つや、曾ての親密希望何處にか、朋友故園なんぞすら、皆な那邊に遠ざかりて、踏下ろせば過去の境界、渺茫々たり、孤身堪えがたしといへど、如何でか永遠の墮落に歸へるべけんや。敢て毅然として畢生の能力を奮はんか、能力の心に伴はざるを奈何ん。方にわれ孤城落日の身、斯くて一方の活路は、唯だ眞心烱々の道光を益々確守して、霊々神音の天に進むあるのみ。アヽ、偉人初めより完たからんや。彼れが進歩せる歩一歩、彼等が立身せる段一段、退きて世に墮落せんか、進みて安心の立命を取るか、實にこれ止むを得ざるの境界に出でたり。止むを得ざるの所ろ、万鈞の斷信を來たし、斷信の出づる所ろ、異常の進歩と嫌疑の勇氣とを來たして、遂に万目をして得て徳を望み得ざるの巨影とはなれる也。

偉たらん哉

吾儕の人よ。偉たらん哉、吾儕の人よ。我邦新の偉丈夫を待つや久し矣。

雜録

ウイラード女史家言數則（上）

フランシス、ウイラード女史は、萬國婦人禁酒會の會頭なり。今其家言數則を得たれば譯して讀者に示すといふ。

曰く。神の御加護有らせらるゝに於ては、往昔ジヤン、ダ、アークが、其御門を助け怒らせたるが如く、おのれ儕の是國を救ひ得ること疑ひ無し。

曰く。女子は、其行く處、留る處を清くせんことを願はざるとなし、天が下いづれか其行可き處留る可き處に侍らざらん。

曰く。おのれ儕米國の禁酒會婦女は、幾萬人に慈悲あらせ給ふ一天の御神を信ずるもの也。少數ならぬ一命を捧奉る者ならんや。思へば其昔漁夫の一行が、ユダヤの山を出しより、十字架の勝利に不徳のことはあらざりし。仁者天下に敵なしとは申す。おのれ儕が常に敵軍に勝つ武器といふは、唯是祈禱の力のみ。祈禱の氣、軍中を覆ふに、其高きことは聖者の希望にも似、深きことは醉漢の失望にも似たり。

曰く。おのれ儕は、進で退かざらん事を思ふ、されば温なること

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

と、日の光にも似よ、動かざること、一天の命運にも似よ。

曰く。白光は七の色を含めるといふに因み、おのれ儕は白き「リボンを」着て、あらゆる改良の途に當るものなり。今禁酒の無用なりといふ途、いづれのところに侍らんや。

曰く。賣酒差止條例は、必ず勝ん。投票によりて必ず勝ん。神希くは御照臨あらせ給へ。

曰く、農民同盟と、賣酒差止主張者とは、共に路を同ふす。

曰く。おのれ儕の事業は、これ他の大なる改良の事業と、相輔け相倚ることを忘る可きや。夫れ、禁酒事業の入りし處には、宗教界に偏性主義といふもの侍らず、又之によりて政治市民の間にも、偏性主義あらざるべし。謝すべき哉、此度發起になりたる會の如き、おのれ儕に望の曉を見せたれば、黒人の投票を出すこと遠きには非ず、白人が酒線を引て相分れ、各一味を呼ぶ時は、黒白の色線こゝに消たりと知べし。

曰く。十九世紀の發明にして傳ふ可き者多きが中に、女子が自己といふものを見出せしは、其一也。凡そ自覺に來るは、則ち力に入るの門なれば、クライストの御言葉にも、我來れるは汝儕に生命を得させせんが爲也とぞ。自覺を深ふして生命を得ること疑ひのある可きや。女子若自覺に來る時は、左の如き疑問、胸中に風の如く生ずるを覺えん、即はち、いかなれば、おのれ儕は刑罰仕置に行はれ乍ら、其法律に一點の吻を容る可らざるや。いかなればおのれ儕は女子の爲其處分の爲に辨ず可き手を有ざるや、いかなれば男子のみ女子の上に生殺與奪の大權を握り常におのれ儕に對して無法の振舞のみ多きや、誰か男子にのみ其人類の他半に向て罪惡を行ふを許したる、誰か斯の如き折に於て男子にのみ其役人撿事法官執吏の職を委ねたる、一國の母として上々の柱石ともなり乍ら法といふ法は皆男子の手にうつりたるは如何んと。

曰く。四十年前より孤立せる敵の堡といふは、女子投票と、其宗門特權とにあり。こゝに事實の矢を放ち。批評の劍を抜ておそろしく敵陣を破りたれば、殘壘再び往の堅めには非ず。

曰く。神の御告にも侍るなれど。此世男女の諸持に變ずるの折來らんこと明也。老若男女等しく地上を歩むの時は、是世圓滿の域に到れるもの也。

曰く。左は申せ共、人船を造ざれば、神の御波と雖も之を送らせ給ふ能はず、帆なければ御息と雖も之を滿させ給ふ能はず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

支那の婦人（下）

四　支那婦德概評

支那高名婦人の傳記の末に、總論を添て云く、

一　帝室の內房はハーレムの如し支那に道德上の害毒を流行せしむる病元となれり。

二　富者高貴の人皆な帝室のハーレムに倣ひ、下、上よりも太甚し、此風止まざる限りは、支那に道德上の壯健を起すと能はず。

三　一夫多妻の弊、婦女子の氣質の上に極惡の影響を及ぼし、之よりして樣々の劣情を引起し、支那國に害ふ可らざる毒を流す。

四　而して女子教育を怠たりたるが爲に、夫婦の弊風を降んにするに至りたり。

五　支那の高名婦人は多くは古へにありて今になし、上流にありて下流になし。

六　方今支那にて女德とするものは、受動的のものにて絕へて活動的のものなし、たゞ漫然古への例に倣ふの外何ものなし。

七　靈界の慰めとなり、理想世界の望みとなるべき婦女子に關する美談毫もあらず。

八　基督教道德に照し高尙の德を備へたりと云ふとを得べき支那の婦人は極めて少なし。

九　子を殺すの惡行はれ、たゞ子を害するのみならず、母の愛情を殺すなり、佛教は人の生命を重んぜしむと云へど尙之を防ぐと能はず、年々數十の女兒は殺さるゝ也。

十　自殺を獎勵するの惡風あり、妻は夫に屬し、夫死したるのちは妻の爲すべきとなしとて自殺を獎勵するなり。

十一　支那の婦女子は、妻たるの故又は契約あるの故によりて操を重んじ、操其もの丶爲に清節を重んずるとなし。

十二　支那の婦女子は、社會の風を清まらすの感化力あるとなし。

五　婦女子に關する支那法律

婦女子に關する支那の法律を列擧し、最后に總論して云く、

一　婚姻は神聖の事とし、たとひ離緣は爲し得べしとするも、尙樣々にして之を大切にせり。

二　夫はたゞ一人の妻に副ふべしと定めたれど、妾は數人

を有するも差支へなし、妾は妻の下に服せざる可らず。

三　夫は姦淫を犯すとも差支へなし、妻に於ては大罪なり、夫は種々の理由により妻を離縁するとを得れど、妻は如何なる時にも之を要求すると能はず、妻もし夫を打たば罰あり、夫は妻の骨を挫くの外は如何に撃つとも罰なし。主人もし罪を犯さば、法に於て其家の婦女子は、たとひ與かり知らずと云へども、官に沒せらるべし。

ゼヲヂ、エリヲツト

女小說家の泰斗ゼヲヂ、エリヲツトが義子チャーレス、レエス氏近頃逝去せられ、家に藏する先妣、ゼヲヂ、エリヲツトが小說の原稿を、英國博物館に獻納したり。

エリヲツトは、小說の原稿を一と先づ書肆に托し版に起さしめ、最早原稿の不用となるときは、直ちに書肆より取返して之を固く封じ、上に其最愛の良人に之を呈する趣きの文言を記し、夫への贈り物とするとを例としたり。

扨て、博物館に納めたる原稿に、右良人へ申す添帋一々存し、伉儷の愛かぐはしく薫ず。パル、マル、ブゼツトに、其文の自筆のまゝなるを寫し、掲げたるを見るにアダム、ビードに於ては、

君が切なる愛ありて妾が上に幸福を與ふるとなかりせば、遂にかゝる書は出來ざりけん、則はち親愛する吾夫に此の原稿を呈す、

と記し、其他一々文を異にすと云へど、要するに、皆な左の主旨なり。

二個の人の靈相合して一つの生涯を爲すてふとを感ずるより、世に更に大ひなる事ありや、勞力には互ひに相勵まし悲哀には互ひに相倚り、苦痛には互ひに扶け、靜けきときは一人の如く、終末相分るゝの瞬間時に述べ盡しがたき多くの記臆を有するほど、二個の人相合して一つとなるは何如に大なる事ぞ。

孤兒院に私生の兒を請べき乎

此頃右の問を寄せたる人あり、假りに答へたる大要如左。

ゼヲヂ、ミウレル氏が孤兒院の憲法の一ヶ條にも、私生の兒は入院を許さぬとありまして、大抵は之に倣ふとなれども、

西洋と日本と人情を異にするゆゑか、今日の有樣より考ふれば、此憲法は日本の孤兒院には適さぬやうに思はれます。私生の兒を入院せしめぬと云ふ理由は、之よりして私通を容易ならしめ、間接に此罪を勵すことゝなるからのことでせうが、實際、私通するものは子供の事を少しも念頭に置かぬものです、而していよ〳〵懐姙したる曉き、初めて心付き、最早仕方なくして遂に之を堕胎するか、又は生れたるとき棄てることゝなります。必竟生れた子が孤兒院で救はれるから云々と云ふ如きの考は初より起らず、ツマリ子供の事を些も念頭にかけざるが私通するものゝ通情と思はれます。扨て、孤兒院が出來て、私生の子でも助けることになれば、堕胎するものは思ひ止まることゝなりませうから、婦人の躰の上、及び殘酷を爲さんとする心の上に、救ひを與ふることゝなりますゆへ、ツマリ私生兒をも助けるが有益でせう。

日本女學史料

○はしがき

明治十八年七月、女學雜誌初號世に出でゝより此方、日本婦女子の上に拘はる大事件は、誌上に掲載して大率ね漏したることなし。異日近世日本女學史など云へるもの、出來なん時は、些さか以て其用に供するに堪へんか。但だ此年月以前に係はるの事柄に付きては、世上未だ其歴史を調べたる人あらず、亦た之に心を傾くるものありとも見へざれば、此誌上暇まと餘白とのあらんたび〳〵、四方同志の人の寄稿を集めて、明治十八年以前の女學史料を編まんことを欲す。吾人も亦或時は、之に關係したる書物を評し、又或時は人物を傳しなどし、大方は、思ひ出づるまゝ、聞込めるまゝの事實を別々〳〵個々〳〵に書列ねて、他日の集成を待んことを欲す。而して之が爲めに四方好學の人の寄稿を待つこと、甚だ切なり。志を同ふする人、幸ひに惠草せよ。

（一）日本第一の歴史は女の口より出づ

日本の歴史として第一に成りたるは古事記なり、抑も古事記編成の由來する所ろを考ふれば、天武帝の御時古事の亡び失せんことを憂玉ひ、歴代の古實に通ずるもの及び博識強記の者を撰ばす、扨て舍人稗田の何禮と云ふもの、時に年二十八歳なりしが、強記なればとて之に古老の説を記臆せしめ玉ふ、

然るに阿禮も年老ひたれば（阿禮は入鹿の亂后一年に生れ元明帝和銅四年には六十餘歳なりける）元明帝の御時、博士太安麿をして其が覺へしまゝを筆記せしめ玉ひける、其書きとめたるもの即はち古事記なり。

（二）稗田の阿禮

右に言へる稗田の阿禮とは女性なるが如し。平田篤胤翁が古史徵の第二卷に云く、

舍人は刀禰と訓むべし（そは書記の舍人の皇女とあるを古事記に杼根王と書き百官男女をすべていふ刀禰を舍人とも書にて知るべし）稗田氏は姓氏錄に見えず（姓名錄には見えたり）天武天皇記に向乃樂至稗田と見えたり然れば大倭の國の地名と聞えたり、彼地より出たる姓なるべし（師云今添上郡に稗田村あり是なるべし）さて弘仁私記序に天鈿女命の后也と見え西記宮の裡書に貢猨女事、延喜廿年十月十四日昨尙侍合奏縫殿寮申以稗田祐貞子請爲稗田海子死闕替とあり（猨女は宇受賣命の裔たること諸書に見えたるが如し稗田は其住所を氏と爲たるならむ）此を合せて案るに阿禮は實に天宇受賣命の裔にて女舍人なると所思たり其は舍人は祝祠に刀禰男女などありて男のみならず女にもいふ稱とて上中下に互りて公に仕へ奉つる者の總名なればなり（仁徳天皇記に命婦をヒメトチと讀み延喜式に宮人をも斯く訓める思ふてさて）女刀禰ならんには命婦また宮人など書くべきに舍人と書れば尚ほ男刀禰なるへし思ふも有べけれど稗田氏にて宇受賣命の裔なれば女と言ざらんも女なること其餘には分明き事なれば常に用ふる字を書ならん然るは宇受賣命の裔は女の仕へ奉る例しなれば也名のさまも男には聞えず彼志悲嫗が事などをも思ひ合せて辨ふべし）女なりと云ふは斯く思ひ合すべき事の多かるを男ありと云ふには更に徵にすべき事なし然るを師の稗田の老翁と云はれたるは委しからず案るに志斐嫗こと姓氏錄に志斐連といふ姓あるゆへに其氏の嫗ならんとは誰も思ふ事なれど此れも志斐と云ふは名にて稗田氏の女舍人なりけむも知るべからず）

維新后宣教師女學校の歷史など
に付き惡言せらるゝ人あらば卒
甚なりさ云ふ

兒藍

小公子

第十一回(甲)

若松しづ子

フオントルロイが、老侯と共に廣野の方から見ては、如何にも畫に畫いた樣な景色と思つた小村の中へ、近く立入つて、貧民どもの有樣を視察したエロル夫人は、見ること、聞くことに哀れを感じるとが多く有升た。どの樣なものでも、近くで見れば、遠方で見たほど全備しては居らぬもので、此村内にも、人々が其業務に勉めば、自然、衣食住も滿ち足る可きに、萬事に鈍く、怠惰に陷つた結果には、貧困者が多く見當り升た。暫くする中に、此エールボロといふ村は其近邊で最も疲弊した評判の村といふとが分りました。夫人は内情の困難なとと救濟の道の殆んど絕へて居つたとを、モドント牧師からも聞き、自分にも發明し升た。村長を撰擧するにも、侯爵のお氣に入りさうなのを撰らんだので、小民どもの貧困に墮落した有樣を矯正するものは、一向に有ませんかつた。現して軒は傾ぶき、住民は意氣地なく、宛がら半病人の如き者斗り居るエールス、コートの哀れな有樣は、侯爵家にとつても、外聞な程でした。夫人が始めてとゝへ行つた時などは、實に破栗する樣でした。場處の醜猥なとと人々の遣り放しなるとと極貧のとなどは、田舍は都より又一層甚しい樣に思はれ升た。ソコア都は兎に角、田舍ではかふいふことは仕方のつけ樣がある筈と思ふにつけ、罪惡の中に畜生ほど、投げやりに育つ穢らしい子供を見、壯肥な城内に王子の如くに保護られ、傅かれて、希望とて叶へられぬとはなく、富裕、安樂、美麗でないとは見聞もせぬほどの境界にある我子を思ふて居る中に、憐憫に優しい母心の中に、フト恵殺た目論見が起り升た。さて子供にとつては大幸にも、不思議なほど侯爵のお氣に入つたとは、人も見、又母にも段々分つて來升た。さうして、子供の望む處は、何とでも侯爵の拒み玉ふことは、殆んどないと云とも分つて來升た。それ故、モドント牧師に、侯爵さまは、セデーの氣隨な望みまでも叶へてお遣なさらぬとは御座りませんものを、そのお與へなさる自由を、他人の爲に用ゐたとて、何の障りが御座りませうか、この事は是非、手前がひとつ心配いたして見ませう。

優しい幼な心を知りぬいてゐる母は、エールス、コートの話しを篤として聞かせなば、申さずともセデーは、祖父に其話を持つて言つて傳へるは必定、さうすれば、望み通りの結果があるだらうと待つて居升た。

然るに、思つた通り、好結果の有つたとは、人々が怪しむほどでした。侯爵を動すに預つて大に力あるものは、孫息子が自分に對する心置なき信任でした……即ち、セドリックが、お祖父さまは、いつも、仁義のある處をお行なさるといふとを堅く信じて居つたとでした。侯爵さまは、自分の心には、人に對して慈善を施し度心持は一切なく、善惡などに係はらず、いつでも自分の思い通りにし度のだといふ內實を、介わず孫息子に悟れる氣にはどふもなれませんかつた。人類にとつての大恩ある人、又は總べて高尙なるもの理想の如くに崇られて居る心に得る樂しみは、格別な者故、優愛に滿ちた茶勝な眼で、チツト見詰られながら、「おれは勝手、亂暴な不埒な者で、一生涯、人に慈善を施たとの覺もない老人、エールス、コートも、貧民も、介ふものではない」と明さまに言とも、矢張さういふと同一な結果になるとを言て快しいとはどふしても思ませんかつた。金色の愛嬌毛を房つかせて居る小息子の可愛さには、例に戻つて、たま〱は慈善的なとをしても仕方がないと斷める樣にもなり升た。それ故、自分で、自分が可笑い樣でしたが、少し考へたあとで、ニウーヰツクを呼びに遣わし、コートのとを長〱と談議し、畢竟、彼のボロ〱長屋を取り崩して、新たなのを建築するとに諦りました。例の淡泊な調子で、

ナニ、實はフォントルロイの建議で、是非にと主張するのだ、始終は爲に好しいといつてナ、店子どもにもフォントルロイの發議だといつて聞かせるが好かろう。

言ひあから、毛革の上に横になつて、ダガルと遊んで居る若侯を見下ろして居られ升た。例の大犬は、此小供の始終の友達で、歩行の時は、嚴然として威儀正しくて濶歩して跡に隨ひ、馬や、馬車の上ならば、凛然其後ろを追ふて走り升た。田舍の人も、町の人も、借屋改築の噂を早くも傳へ知り升て、始めはそれを事實と信ぜぬものが多くあり升た。併し、一と揃ひの職人が來着して、跟いてゐる樣な見すぼらしい借家を引倒し始め升た時に人々はまたもフォントルロイどののお蔭

で、こふいふ結構なとにな頑是ない執成でエールス、コートの醜聞も消へるとと漸くに分り升た。フォトルロイは此人々が行く處に自分の噂をなし色々に賞めたて、生立の上は成し遂げるだろうといふ、大したとの預言を聞升たならば、無論くとでしたろう。併し自分はこふいふとがあらうとはサッパリ知りませんかつた。矢張り、相變らず淡泊で、氣輕るな子供らしい生涯を送り升た。樹苑に跳ね廻つたり、兎を追廻して穴へ追ひ詰たり、柴生の木影に横たわつて見たり、書齋の毛氈の上へ寐て見たり、珍奇しい書物を讀んで、お祖父さまにも又母へも其話しをしたり、チックやホップスに長い手紙を書いて、それ相應な返事を貰つたり、お祖父さまと一所か、又はウィルキンスを供に連れて、馬に乘つてあるいたりして居升た、人が市に集まる町を通る時分に、人々は振り返つて見ては脫帽して禮をする時大層悅ばしさうなのに、氣が附き升たが。これは全く、お祖父さまと一處だから、みんなが、悅こぶのだと思ひ升た。一度は例のさえ／＼した、笑ひ顏で、御前のお顏を見ながら、

どふも、みんながお祖父さま好だとネ、お祖父さまみると、あんなに嬉しがつてゐるの御覽なさいよ、こんだ、僕もあんなに好になつて呉れると好いけどチイ、一人なし皆んなに好がられゝば大變好でせうネ、

といつて、左程に珍重され、愛せられる人の孫だと思へば、大威張りだと考へ升た。

住家を建て始め升た時分には、フォントルロイはお祖父さまと一處に見に行く／＼し升て、フォントルロイは大層熱心でした。自分の小馬を降りて、職人と知己になりに行升て、建築のとや煉瓦の並べ方に付て、色々質問したり、米國でのとを話して聞せたりし升た。二三度もかふいふ話しをしてから、家に歸へる道すがら、煉瓦盛の秘訣を侯爵に教へるとが出來る位でした。そうして、後でこう言ひ升た。

僕はかふいふとが聞いて知つて居度んですよ、ダッチ人はいつどんなになるか知れないつてネ。

今日は同時同刻を定め府下の各所に於て禁酒の大演說あり

小說

苦患の鎖

ひさご

松子は性質無邪氣にて十三四の乙女の如く活潑なる交際をこのむに、其活潑なる風姿自から交際社會にもてはやさるゝ原因となり、この度の別居の事聞えしより、若き男子、影の身にそふ如く圍繞して何れの宴會にも松子の姿見えぬ事なき樣になり、かへり花咲し身の、もとよりは色香深く人々に、もてはやされぬ。交際は腦の食料をとむる如し、食ひ盡せば又飢にくるしみ、不滿足を生ず、腦裡に新運動、新思想、新意見を存すれば、精神したがひて平均を失なふ。故に妻たる者他の男子と交り、其風采談話に感ずる時はよ、の心おさき夫には飽るゝ時なり。これらの結果、遂に離婚の沙汰に切よぶはめづらしからぬ事なるべし。耳目のみ働らきて、意思伴なはぬ世の中、男の多は夫婦同躰てふを苦患の鎖につなぎし事とこゝろ得、己れ一人流るゝ愛のゐせきとなるが、戀愛の極意と尊とぶこそわりなけれ。松子の夫も人の愛をうくる事に巧なり、宴會の席踏舞の夜、婦人の相手としては誰もおもしろく、おもはぬ者なく、耳新らしき咄しに朱脣を開かせ、流行の唱歌發朗らかにうたひて耳をかたむけさす。初松子もこれら、みきゝて、心をさへかたむけしを、かれもみてとり、松子の風姿才智などをとはず語に稱贊して、意をむかふる事をつとめたり。男子の强ひてなしたる稱贊は、心ある婦人の甘じてうくるものならねど、快活なる性質は、深く思ひ及ばぬ所あるものにて、松子は遂にこの稱贊こと〲くうけ入ぬ。一度うけ入れたる腦中には、それらの事おもひ出ぬ事なく、廣子の忠告も心にかゝり、嶋の如く遊びにと、むれくる若き男女も漸々めづらしからずなりて、心の中淋しさを覺えぬ。低きにつくは水の性なり、もとむる所によりきたるは萬のもの丶性なり。夫の方にも貴婦人などの出入しげく、遊びくらす樂しみはかねてのぞみし事なれど、おもふまゝになりて見れば、これも又一時の樂しみにして、心中もの淋しく、軒吹風に大空うちまもるやう成ぬ。この心しる人おければいづれもいよ〲交際社會にもてはやされ、親切めかして復歸を促がすもあり、野心狹みて離婚申入れよとすゝむるもあり。これらよりなほうとき人は、何學士と松子又約束しぬ、何婦人松子に代るてふ噂ありなどかしましき風說い

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ひさわぐは、當人のこの頃の心にいとゞくるしくおぼえられぬ。松子もこの噂耳に入りしより、さすがにわが夫の思はん事心ぐるしく、いかにもしてこの風說の播傳を防がんと心をいため、遂に友達の資格をもて夫に相談して見ばやと迄思ひなりたれど、其儘に、たゆたひて、日をおくれる、ある朝、門前に散歩せばやと立出し時、わがたより走りきたりし車の上の紳士朝の綠に手をかけ、幾度も我家の方を見おこせて過さりしは、まがひもなきわが夫なり。われ知らず走りちかづかんとしゝをからく心とゞもに引もどして、我家へ走りかへり、しばらく恍惚と机にむかひしが、おつる涙をかきはらひて、一通の書をしたゝめぬ。翌日はいつより早く起き出で、居間を掃淨め、わが尤意にかないたる衣服着して何氣なきさましたるも、胸の鼓動波打つごとく、待間程なく入來たりしは夫なり。ふりむく事成かたき迄はふり落る涙に詮方なくて、うつむき禮すれば、男はさすがに心づよくて間近くゐより、

夫「御文は昨夜屆いたが、御さしづより遲くなつたので、氣にさはつたかね、いつもの長尻の永井がきたものだから、よく友達といふ事丈けでも忘れんでくれた、きのふもこゝの前を通たが、男といふ奴は妙な所に意地があつて、遂無さたをして………、なにかこの頃は胸の痛みはないか、まだ朝飯前か又たれか一所にたべるんでもあるのか。

松「あなた、誰もそんな人は、此頃じやアなほの事ありません。

夫「それは淋しからう、幽靜お代りにこんな所に長くゐられる所じやアない、實は予も朝飯前だが一所にどうだ。

松「どうぞ願ひたうムり升、この頃でも御獵にいらつしやい升か、大そう御やつれ遊ばしたやうです。

夫「おまへの方がよつぽど痩た、獵もこの間いつたけれど、いろ〳〵持つて歸つた所で、料理する人のないにはじめて、獨居の不便を感じた。

松「ヲホヽヽ、大そう私くしの價値が上りましたネ、私しも淋しくつて泣出したくなるとがあり升。

夫「さうでもあるまい、隨分交際で忙がしいといふ噂だ。

松「多くの人に交際して更に淋しくなつたのです。

夫「それはさうと、何か用があるといつてよこしたは、なんのことだ。松子は幾度も夫の顏を見上げ見下ろして、

松「あのこの頃の風說はなんとおぼしめし升。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

夫「無論、無根と信じてゐた、一度夫婦となつたものが、かう疎くしてゐるのは、何か原因がなくてはといふ臆測からだらう、隨分辛棒がひのない話しだからナア。

松「私しもあなたが多くの人に愛を分けるとやかましく、おつしやいましたが、今度多くの人と交際してはじめて眞の愛、夫婦間の愛といふものを見とめました、人間の性質でも凸凹がなければ二ッしつくりいかぬといふともしりました。

夫「實にさうだ、やつぱり早くいへば堪忍だ、今迄予のいつた事でわるかつたといふ事も、少しは悟つた、今迄器械とりあつかひにしたは、よくなかつた。

やさしき夫の言葉に松子はいとゞ心くじけ、泣くづをれる首のまはりに、夫は靜かに手をかけ、おのが半巾に涙をぬぐひやりて、

夫「サアモうい丶かげんに朝飯にしてはどうだ、これから又三度〳〵一處にするはいやかネ、さうなればわるい風説も消えるわけだが。

松「私くしは淋しくつて、一番御飯の時が淋しいのです、このはなれ座敷には、私くしと下女斗りですもの。

夫「サア、じやア一處に早く喰べやう、モウおまへを予一人のもの丶やうにはしあい、夫といふ人類の友で、妻といふ人類だとおもふ、これ丈けが別居して得た新思想ダ、わるくは決していじめあい、氣おきなくとゝへおいで。

夫は我家の如く自ら松子を食卓にいざなひ、ともに食するは、近頃おぼえなき珍味なるべし、終りにのぞみて夫のさし出したる碗に松子、茶をつぎつゝニツコと笑をふくみ、

松「ア、又いつかの幸福の綱の芝居みたいじやアありませんか。

互に愛すべし（約、十五の十二）
互に顧るべし（來、十の廿四）
互に祈るべし（雅、五の十六）
互に事ふる事を爲せ（加、五の十三）
互に相勸めよ（來、三の十三）
互に惠むべし（提前、四の十八）
互に慰め又各々の德を立べし（提前、五の十一）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

批評

聖武天皇

撫象子

史海の第五卷に、聖武天皇の御事を論じ、史家往々帝を暗愚の君なるさまに傳へたる誤謬を破し、此回先づ其の初段を述べたり。論未だ盡ざるにより、其全豹を知りがたしと云へど、先づ帝の賢明に渡らせられたるとを推定し、而して佛教が本地垂跡の方便說によりて、天照太神と盧舍那佛とを混合するの大事業を、帝の御時に於て成就し、我國心理の上に大變動を劃したる所以を說明せんとするものゝ如し。全篇通覽の上、一評を呈せんとを欲する所ろなるが、此回に於て殊に耳立つものは、多くの神々の告げ、又は夢想の說あり。神之を賛成し玉ふ、神お禮を述べ玉ふ云々の如きは、餘りに滑稽過たり。鼎軒が之を信ぜずして一と先づ傳說のまゝを利用するの意は明白なりと云へど、之を歷史上の一理由として使用する限りは、他に何とか相應の解釋を附け置かずんばある可らず。もし分らずやありて、鼎軒は實に此の夢想、お告げを信ずるものなりと言はんに、首肯せらるゝか。因みに云ふ、前回の評、天武の詩の件は、失策なりき、寫本を讀用して、思はぬ後れを取りたり。

新誌一覽

○源義經

東洋學藝雜誌第百二十號に、星野恒氏の講演に係る、源義經の辨の筆記を載せたり。義經は衣川にて確かに自刄したるに、昔し大川次郎は、義經尙ほ生存すと言觸せしとあるより、德川代に至り蝦夷へ落ちたと言い、元祿享保間には金國に渡つたと云ふ說になり、寬政頃には淸朝の先祖になつたと唱へ出し、維新后之を唱傳し、遂に成吉思汗の說が出るやうになりたり。然れども、其衣川にて死せし事は決して不可爭、衣川の戰は康衡の兵數百騎不意に攻來りしものゆへ、禦ぎ切れぬは當然の事なり（一）。當時賴朝の間諜奧州に多く迚も逃るゝ事出來ずやうやく身を秀衡許へ托したる次第ゆへ其府逃れ難きは勿論なる事（二）。康衡は義經の首にて自分の首を繫ぐ心ゆへ僞首を以て責を塞ぐなどの事あるまじき事（三）。況んや僞首にて欺きがたき事情ありし事（四）首は漆で塗りて函に酒にてつめてありしゆへ決して腐れて居らざりし事（五）。たとひ腐りしとするも腐らぬやうに美酒に入れてありしは僞首ならぬ證據たる事（六）。日本史の腐敗し云々の說は信じがたき事（七）。賴朝の隱密探偵より何の注進もなかりしやう吾妻鏡に見ゆる事（八）。義盛景淸の二人首實驗したれば誤まるまじく若又僞首ならば其事を名にして賴朝は征討すべきに毫もかゝる事のなかりし事（九）（十）。賴朝奧羽征討して厨川の柵迄で到りしよし此柵は衣川の館よりズット奧なりしが一向に義經生逃の話しを聞かざりし事（十一）。鬼界ヶ島に義經及平家の餘黨逃隱れ居るとを聞き鎮西奉行天野遠景に命じて討たせたり、蝦夷は鬼ケ界島より近きゆへ其評判あらば軍を向けたるべき事（十二）。大川次郎が兵を擧たるとき義經と自稱したり義經蝦夷に逃げたりと聞かば之を迎へるとか推立するとか言ふべかりし事（十三）。以上十三段の證を擧げて義經逃隱の說を破し、且つ奧羽蝦夷などに於ける遺傳の證據なき事を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

弊したり。其ほだ細かなる議論に似て實は忘臥しがたきが然少しとせず。五段に至る迄は殆んど證據とはならす、第六も鎌倉を恐れたる泰衡は美酒に沒したりなど云ふとあるべし、果して美酒なりしとを知る可らす。第八と第十二とは頼朝腹中の男にして義經逃隱の事を聞かざる躰に偽したりとの一説を破るに足らず。第九と十とは價値うすし。第十三は、大川次郎自ら義經と稱せんとを欲し義經擁立などの策を採らざりしとせば何如ん。要するに更に多くの研究すべきありと云へど、「義經死于衣川」の舊説を維持するにはあらん限りの證を盡したるもの丶如く甚はだ益あり。

○佐倉同協社の茶業

佐倉同協社の如く安固にして味ある結社は少なかるべし、而して武士の末路の斯も面白く成行く者亦多からざるべし、其團結して茶業に歸し、十年一日の如くにして遂に今日の盛况に至りたる、歴史、及び製茶方など農業新誌第四百廿一二の兩號に見ゆ。

○既知文字

大日本教育會雜誌第百九號に、峯是三郎氏が調査にかゝる小學生徒既知文字の數の表あり、此は一時半乃至三時五十分の間だに、思ひ出るまゝに知れる限りの文字を書かしめたるものなりとぞ。扨て其表下の如し、

	最多ク書シタル數	最少ク書シタル數	全級平均數
高等二年生	千四百六十三字	六百五十四字	九百二十三字
高等一年生	千二百〇六字	四百九十六字	七百五十四字
尋常四年生	九百六十一字	四百〇五字	六百八十二字
尋常三年生	七百三十四字	二百六十五字	五百十一字
尋常二年生	三百七十六字	百五十八字	二百七十六字
尋常一年生	百四十八字	六十四字	九十五字

○新著到來

○五島淸太郎氏譯、ダーヰン氏自傳
○小谷古蔭氏集、六杉園集
○仰天子著、新著百種、新世帶
○新著百種十七號、四氏の著
○流涙子著、いさのみだれ
○坪内逍遙氏著、春の家漫筆
○山田美妙齋著、靑年唱歌集

○己の主義を明らかにす、

交際通らしき紳士、三十歳に近き婦人に向ひ、
失禮ですが、あなたのお名前は、ミスス鈴木でしたか、ミス鈴木でしたか?
婦人
ハイ、ミスで御坐い升、故意に(と終りの句に力瘤を入れ)

○珍らしき正直者、

學校歸りの六歳の小女
かあさん、けふ先生が暗算の時、四に三を加へろと仰つたんですよ、それからあたし、石盤へすじ付けて、四――それから、五、六、七、と勘定すれば七と出るのもつてたけれど、そうすればずるいから、わざと、五つていひ升たよ。

○價値ある品物、

北海漫遊の紳士、
この頃燻し鮭魚はいくら位し升?
男
さやう、四十錢位です

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

紳士　生鮭は一尾、いくら位です。

男　マア八九錢の時も有升。

紳士　そして、いぶす日限は一日どんなもんです。

男　一寸、十二錢程でせう。

紳士　して見ると、煙の値が餘つぽどですナ。

○敎師の當惑、

ある倉津田の敎師、書讀を敎へて、一刀兩斷といふ文字に至り。

皆さん、ソレ、いつとう、その次の字は何んといひ升?

生徒一同　分りません。

敎師　○○ようです、ようだん。

生徒一同　ようだん。

イヤ、左樣でない、ようだん。

生徒一同又　ようだん。

さ樣でないと申たでは有ませんか、私の云ふ樣でなく、あなた方の云ふ樣に、兩斷とお讀なさい。

○俊　　亦

江戸の八五郎、香魚とりにとて出掛けしまゝ歸らず、身寄の者川筋をさらひたるに、一の屍を得て、八と議決しぬ。因つて打集ひ引導渡しの眞最中、ヒヨツクリと歸りしは八也。さて八ならざりし被害者を弔ひ終りて後、ある人八に向ひ、おめへだと思つて人が葬れんに集つてたとこ見てマアなんと思はつしやつた?。、

おれか、おらあ、あの死げい見ると、直、なんでもおれじやねいに相違ねへと思つた。

無想劍　　天知子

愛人を失つて劍道の極致を悟り、劍は途に道なるとを大覺したる人の實驗を傳す。意匠高傑、文字典雅、幽谷の森風に動き壑々の有あり、大洋の水瓦波を打つて大湧す。蓋し、近來稀に見る所の好小說なり。次號より掲載せんとす。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

寄書

文部省の方針一定

某氏の名を以て左の一篇を寄送せられたり。

小學令は如何なり行くべきや文部省の方針又々一變すべきかとは概教育社會の疑惑する所なるが右に付教育家なる某久保田普通學務局長に就き其意見を叩きしに左の旨趣を以て答へられたり之に依て小學校令の成行も文部省の方針も大概推測するを得べし教育社會徒に杞憂を抱くことなかれ。

予が普通學務局の椅子に就きたる日より教育家は勿論四方の有志者予に向て小學令に附隨する文部省令猶數種の發すべきものあり何時發するやを質問せるもの多し又新聞紙の如きも屢〻此事を記載し種々の臆想を付して頻りに攻撃を試みたるものあり然れども予は別に考ふる所あるを以て一も之が答辯をなさず又今日まで實に新令の起按にも着手せず只目前不得止事のみ處分し居れり然るに今や大木大臣の示指に依りて局務處辨の方針一定するを得たり此方針は未だ詳細に公示するの機會に至らずと雖も要は國力に伴ひ民情を酌み教科と施設とを切實簡易にして夫の教育過度實業忌避等の通弊を矯め貧民の兒童と雖も容易く就學するを得せしめ教育普及の實功を擧ぐるに在り即ち今より諸法規の調査に着手し新省令の起按に從事し不遠して其發令を見るに至るべし抑〻小學校令を發して同時に附屬令を發せず一ケ年を經過する今日にありても猶不得止分より其一部分を施行しつゝあるは甚だ不都合にして實際亦不便を免れず依て予は可成速に附屬令を發して一般に小學校令の全部を施行せられんことを企圖するなり又此方針は今遽に考按したるものに非ず大木大臣にも始めより定説あり予も亦數年前より定按あり昨年の外國行以來一層自説の國情に照らして不當ならざることを信ぜり然るに此方針を實施するは中々面倒なる事柄なるを以て今日迄其施行順序の考按に時日を移したるなり併し一定の方針已に定まり之を斷行することゝ決したる上は一直線に進行するを得るが故に小學校令發布前後の如く時日を遲延する樣の事なかるべきを保證すべし。

大に警醒を促す

横濱 佐々木笑受郎

予は實に巖本善治君を煩し女學雜誌面の一隅を汚すの止むを得ざるに遭遇せり前門の虎未だ平げざるに後門に狼踵て至る虎狼能く殺戮し盡すの時予果して觀るを得べきか或は廢娼の議を縣會に提出して幸に其可決を致すと雖ども未だ知事其人の認可を得ず或は市內街賣婦之處分に關し其嚴重なるを請ふて未だ其成績を聞くを得ず或は「チヤブヤ」の取締上に就きて警部長と大に談議する處あるも未だ取締規則の制定ありしや否やを確めず而して唯僅かに帝國議會の開設を祝すべしとて市民が藝妓をして市內に舞ひ歩ましむとの計畫に對し警部長代理と其不都合を談りて予の意見の如くこれが差止ありしを見るのみ夫れ如斯言ふ處多くして果の因て生ずるの勢きは全く予等が微力なるに職由するとは言へ誠に慨嘆の外なきなり」伊勢佐木町は橫濱市中最も繁華の地所謂車轂撃ち一肩摩する、袵を連れて帷を成し袂を擧げて幕を成し汗を揮ふて雨を成すの處街頭巍然として建つものは劇場蔦座なり座前人山をなす其見る處果して何物ぞ黑髮剃落したる翠玉の頭を半ば垂れて可憐に言ふある美人の畫、上部には朱書の假名を負ふ雄太し文字趁百目頭殊に大「新懺悔錄」を記す末尾の「大惡婦島津政女讀白」の文字最も大なり其文の示す處何ぞ曰く妾は紙幣を贋造したり曰く妾は詐僞をなせり曰く掠奪したり曰く大罪大惡は之を犯せり曰く無期刑を宣告せられたり曰く然れども妾は全く懺悔したりと而して最後に曰く故に勸善懲惡の爲めに妾の經歷を妾自ら演せんと夫れ演劇の人心を害する尠少にあらずと雖ども實地演劇に至りて弊よ極まれりと謂つべし予未だ此演劇の仕組を見又聞かずと雖ども其自身の惡業を公衆の面前に眞似るとは云ふに於て其害毒の大なるは人の決して想象し得ざる所なるべし思ふて玆に至れば唾棄鐵面爲めに涙を迸し予をして默過するに忍びざらしむ則ち警察署長と面接して嚴に之が取締を促して歸へる知らず署長は之を如何に取締るや予は憾む品川內務大臣の風紀政略未だこゝに及ばざるを、世間幾多の義士よ貞婦よ彼島津政女は恐らくは以來各地に巡遊して非常なる大毒を其地〳〵に流さん彼の所謂勸善懲惡は寧ろ勸惡懲善なるものぞ若し不幸にして彼行かんことあらば正義の城廓爲めに破らるゝ勿れ、諸君の子女をして空しく彼の害する處とならしむる勿れ、警醒せよ、警醒せよ。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

時事

○商界一新

實際利益ある商社は何程ありや、其底を叩けば、總べて空虚ならぬは無し。株金幾十萬、役員何十名、諸冊幾百卷、秩然燦然として、一大會社にあらぬものなし。而して、番頭、丁稚、手代、檀那、の昔しへに比して、何程の相違ぞ。相違する所ろは、無理をして只だ損を為るのみ也。あゝ、日本今日の商界は一新せざる可らず、其相當の地位に戻りて、矢張り昔し風の質朴淡利の實相に安んぜざる可らず。

○政治家諸君

深く諸君の勞を謝す。而して諸君が勞力の結果は何ものぞ。日出でゝ西に入り、復出でゝ西に入る、風は東に吹き、俄りに至りて、又東に掃ふ。一進、一退、一進、一退、たとへば波の起伏するが如く、秋草の消え又た枯るゝが如し。兆民子大觀して、自由が車を推すに類すと云へり。然れども、自由は何ぞ消風に忘れり。

○山口の演說

東京の名家は何故田舍にてのみ演說さるゝ乎、伊藤伯の如きも、山口に到りて始みて政黨内閣の是非を演說されしよし。國會を開き、民に議政權を與へ乍ら尚は政黨内閣を惡しく言はるゝとも、人誰か信ぜんや、皇帝陛下に責任を負はせ奉まつり、内閣のみ泰平安康ならしめんと思ふ忠臣はあるまじき也。

○府知事

知事を廢するの論は至極よし、もし知事の名を存ぜんとならば、之を書記官以下の格に引下ぐべし。

○ガバーネス

都新聞は「我が富家豪族の子女を如何にせん」と題する社說を掲げ、西洋に行はるゝガバーネス(保傅)の事を紹介し、無學卑劣なる下婢に其子を托せずして、相應の保傅を戸々に雇ふべしと勸告せり。有益の說なり、其行はれんヿを望む。

○婦女子の不德と職業

不德は無職業より來るとて、朝野新聞は、婦女子に職業を授くるの必要を論じ、久留米邊の實況を擧げて、勤勉と品行との必らず伴隨すべきヿを確かめたり、

○亡兄の寡妻

亡妻の姉妹と婚するヿに付きては、英國に於て年々議論あり。

之と類するの説か、山梨日々新聞は曰く、亡兄の遺妻と其弟が結婚せんとするときは事情を具して司法大臣へ伺ひ出で、斯くせざれば一家の血統斷絶する場合のみ特別の詮議を以て許可せらるゝ手續なるが偖て亡兄の遺妻と弟が結婚するは取りも直さず兄弟間の結婚なれば事情の許す限りは避けて爲さゞることゝ人倫に適ひて宜しかるべきに何故か本縣にては遺妻と結婚せんとて許可を願ひ出づるもの割合に多き由なり萬己を得ざれば致方なきことゝなれども出來得る丈けは思ひ止まらせ度もの也。

○村芝居

京都府、中、竹郡、熊郡の郡長稻葉市郎右衛門氏は、去る十五日、左の通り各村役場へ訓示したるよし、

氏神祭禮の時に當り芝居興行の儀に付去明治十六年特に丹後國に對し本府告諭の趣も有之候處爾後此弊風漸々改まり一般の風俗進化の實を見るに至らんとする今日に當り豈圖らんや此頃芝居興行の計畫を爲す村方多しと聞く右は再び丹後特有の弊風を復したりと世の嘲りを受る如は甚だ以て遺憾の至にして不肖市郎右衛門の罪なしとせず就中僅々農事の兆候を見て粗忽にも早く己に怠惰の風を生じ候樣にては目下必要なる地方自治の實力を養成するの法に矛楯し慨嘆の次第に付右等の計畫者有之向は精々諭し方取計あるべし云々

親睦和樂は勤勉の基なりと云ど、遊惰に流れ易き遊びは禁ずるを好とす。農家願わくは、長年の美風を亡ばすとある莫れ。

○小學修身書

文部省德育の一方案として、又々新らしき説出でたり。曰く、全國小學校の德育教科書を一定せんと。此説先づ行わるゝとなさん、而して此の教科書を實用する教師の德を一定するの工夫ありや。あゝ、文部省の德育策の末路如此しと。一片の文字によりて倫理を定めんとし、一冊の書によりて修身の教を極めんとし、而して當路の人が、姿を持つとも、不品行に沐するとも頓着せざる也。

○議會に於る沈默

板垣自由黨總理の説行われ、第二期議會に於ては、沈默の義務を守らんとの説、自由黨内に確定したり。素より然あるべきとにて、眞とに結搆なる決議なり。

女報

あい子

●恩賜　先般富山福岡兩縣下非常水害に付き罹災人民同種の絶むき惻然に思召され、天皇陛下より各々金千五百圓、皇后陛下より各々金五百圓を下賜ありしに付日下救恤の補助に充つべき旨昨二十四日兩縣へ達せられたり。

●御代拜　去月廿三日は、秋季皇靈祭の節に付、掌侍吉田鈺子氏皇太后陛下の御代拜を、掌侍從小路良子氏皇后陛下の御代拜を奉仕す。

●故淑子内親王の御祭典　本月本日は、故桂宮淑子内親王殿下の第十回忌相當に付、宮中に於て御祭典を行はせられ、尚ほ京都なる御陵墓へも夫々御代參を差遣せらるゝ旨なりと。

●兩内親王殿下　日光に御避暑中なる昌子内親王、房子内親王兩殿下は、去月廿五日午前七時二十分日光發の汽車にて御出發、午后零時廿五分上野着同一時三十五分還御あらせられたり。

●露國皇太子殿下の御結婚　露國皇太子殿下と從妹なる希臘國マリー内親王殿下との御結婚は、近日の中發表せらるゝならん。

●皇族の避暑　有栖川威仁親王妃慰子殿下並に栽仁王實枝子女王殿下は、嚢に靜岡縣下興津及び神奈川縣下箱根等へ避暑として旅行中の處去る廿二日歸京されしと。

●供奉の女官　皇太后陛下京都行啓に付て供奉仰付られし女官は、典侍(滿鉄)萬里小路幸子、權掌侍(若竹)竹屋津根子、外に命婦三名位の由にて誠に御手輕きことなりと承る。

●妙齡の婦人竊盗に基督教を說く　横濱石川中村千二百四番地井上たつ子は、基督信徒なるが去る廿三日外出せし跡へ竊盗忍び入り、衣類物品等を竊取されたるにぞ、直に其筋に届け出でたる處、同日捕縛となりたる東京淺草區南元町八番地木村清兵衞の次男清吉は、即ちたつ子の家宅に忍び入りたる者に付き、其旨同人へ達したるに、たつ子は、馳せて横濱警察署に至り竊盗清吉に面會を求め、探偵寄留の筋に於て面會を許されたるを以て、たつ子は先づ清吉が今日竊盗の目的を問ひて、其昔の道を教へ懇々宗教の本旨により勸善懲惡の道を說き清吉が無事出獄する時は必ず上帝に祈らんと熱心に諭したるにぞ、流石の竊盗清吉も、汗を流し、傾聽し大に感動する色ありし由なるが、たつ子は去るに望み懷中せし一の聖書を清吉に與へたりと云ふ。

●大日本婦人教育會　にては廿六日午後一時より虎ノ門女學校にて常集會を開き、工學士三島通良、文學士澤柳政太郎の二氏婦人の心得と云ふべき演說ありたり。

●淫賣取締の諭達　淫賣取締の件に付、去る十七日警視廳にては、各警察署長を招集して訓示する所ありしよしなるが、其の后各警察署長は管内の遊船宿、待合茶屋、料理屋等營業人等を招喚して、自今一層淫賣取締方を嚴重にするに就ては、各々心得違ひ之なき樣注意すべしと諭達したるよし。

●日本人の婢僕日入所　八月三十一日の新嘉坡新聞ノリープレスに左の如き廣告あり。

身持ち正しくして不都合なる事を爲せし事なき旨の日本に居留する歐洲人の證明書を有し英語を解する事を得る日本人の婢僕を雇入れんと欲する人は二ケ年の期限下の如き給金にて(給金表を掲げ)其求に應ずべし。

●發賣禁止　本郷駒坂町菱庭政之助發行の醫師北島準の美人畫像集(文政年中)三冊は風俗を壞亂する出版物と認められ内務大臣其の發賣頒布を禁ぜられたり。

●日本に於ける加奈陀婦人傳道會社　該社書記ブラクモーア孃より左の報告書を寄せらるとて護教に見ゆ。

日本に於ける婦人傳道會社の第四年會は、九月一日午后麻布東洋英和女學校に於て開かれたり、議員悉く參集しラージ夫人議長たり。

開會の祈禱讀經の後、ウヰントミユート孃、議員一同に代りて、ラージ夫人の再渡と新議員、ロベルトソン孃、ショーツ孃とを歡迎し、ラジ夫人簡短なる答辭を陳べたり。

七月委員に於て、ウヰントミユート孃、ワンド孃は、我事業の組織改正及外國人の役者と日本人の役者との一致を更らに密にすべき方案を立つる爲に委員に撰ばれしが、二孃は、下の效項を報告せり、(一)日本に於けるメソヂスト教會婦人傳道會の憲法、此傳道會には、加奈陀日本婦人傳道會社に用ひらるゝ日本婦人は、該傳道會社の外二婦人と共に議員たるの資格を有する事、(二)日本婦人が加奈陀婦人傳道會社に入るべき資格を定むる規則、(三)加奈陀婦人傳道會社の雇傭者に課すべき問題。

右三に付て此方法の採用を本國本社に推薦することに決す。

福音事業の委員は、東京に聖經學校を建て其他の主要なる傳道地に教育所を設け、以て我聖經的役者を更に善く訓練するとの方案及び聖經學校と教育所との科程をも提出せらる。

此報告も年會の認可する所となりて本社に寄送せらる。

派遣委員の報告は、我事業と我役者の分職に少しの變化を示せり、即ちラージ夫人は、東京英和女學校顧問に任せられ兼て麻布學校の福音的事業を掌り、モンロー孃、東洋英和學校々長たり、ブラクモーア孃は、ウイントミユート孃に代りて甲府に赴き、ウインミユート孃は、一ケ年の休暇を得て加奈陀に歸り、プレストン孃は、福井に福音的事業を取り、ハアグレーブ孃は、カンニングハム孃と共に金澤に働き、ロベルトソン孃は、靜岡に於る福音事業を監理す、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

會計上の報告に因れば、本社より受取りし前年度の金總計計一万三千二百十六圓三十九錢なり

九月四日夕、會を終る

千八百九十一年九月十五日東京に於て

記錄書記　イサベル、エス、ブラックモーア

●秋田大館の婦人信徒　同地は久しく野田株水氏が熱心に傳道せしところなるが同地婦人信徒にて年長のものは多くはじめは假名の聖書さへ讀むことかたかりしが信者となりてより讀習ひ今は假名つきのものは讀得るに至れり、別に感ずべきは六十餘の老婦婦人が只た說教すゝめのみに聞くよりは自ら聖書を讀みなばどれほど信仰に益あらんかとの一筋に小供が習ふ「いろは」をばかりを習いはじめ近來は一と通り通ずる程に進みたりと（護教）

●博愛家エリサベス、タムソン夫人　前號に記したる同夫人は一千八百六十九年其良人に後れ毎年十万弗の收入ある財產を受てよりは、二千弗を除くの外は悉く博愛事業の爲に費やしぬ、夫人嘗て万國同盟會に美麗なる旗章を寄送し、其他禁酒事業に熱心盡力せる爲め婦人禁酒會員の知る處となりたり。又カーペンター氏の手に成る彼のリンコルン氏奴隷解放條例發布の光景の圖を、代議院に寄送せる記念として、同院終身の議員として發撰せられたり。

●公立婦人ユニテリアン同盟會　同會書記エシリーフィノフィールド夫人は當九月サラトガに開かるゝ同年會に於て演舌せらるとなり。

●渡邊常女史　嘗て神戶女學校を卒業し、米國ウイスカンシン、カールトン、カレージに留學中なる同女史は今般歸朝の準備として、マサチュセット州の各教會を巡覽せられしと。女史は實に日本に於て基督教主義教育の利益あるを證明せる殆んど最初の婦人とも云ふべきなり。（ウーマンス、マガジン）

●キングスドーター　一千八百八十六年に組織せられ、英國加那太、丁抹、日本、墺西太剌利亞等殆んど全世界に擴まり、然して今後愈々盛ならんとする王の娘の會は、今度名稱を改めて、王の子、女萬國同盟會と稱し、本部を紐育となし、各國の同會を其支部となすの組織となしぬ。青年男子及男兒等は、千八百八十七年より同會に記名し、共に主の名の爲に王の子息として高潔清廉なる働をなし、大に裨益ありたりと。

●フラウ、アデルス　普佛戰爭の際非常の熱心もて看護の任を盡し獨逸のナイチンゲールと呼ばれたる同女史は、先頃逝去されぬ。女史は、創傷者看護法には妙手なるを以て、ルイス會の一等看護婦と認定され、其が勳章を受領せり。

●ウエスレー大學の女生徒　同大學に於て婦人の卒業生を初めて出せしより既に十五年を經過せり。其當初一千八百七十六年に於て女子の初めて入學せる時、其生徒は定めて健康を害するとならんと疑はれたりしが、爾來十五年間、一人の死の不幸に罹るものを見ざりし。其が四人の卒業生、即ちエダ、ウエルス（ハーヴァーヒル）夫人、アンギー、ボイキンス夫人（アリン、モール）ゼニーラー、チッド嬢（バアファロー）フェーブ、ストーン、ビーマン夫人（ウエストブルークフィールド）等の中三人は今猶健全たり。

●女官吏　遞信省の書記、活版手、電信電話の技として米國各官省にて當今婦人を試用ひるゝに付、中央亞米利加サンサルバダーに於ても亦當今經驗中なりと。又四國の大統領セノル、カーロス、エゼタ氏は女子の能力男子に劣ると云の理なきと、及政府内に大抵男子のみを用ひ女子を用ひざるは、理論上決して至當の次第にあらずして、當に古來の先例に反するが故に爲さゞるのみと云の主義にて、今般此目的に隨ひ自由に婦人を養成せんが爲、官立女學校を建設するの命を發せりと。

●女流婦人の喫烟　は、パル、マル、ブゼットに、近來上流婦人社會に甚多く喫烟の行はるゝを見るとて、左の數例を揭げぬ。チストリアの皇后は、每日三十本より四十本のトルコ卷烟草を喫烟す、故に同皇后の机上には何時も美しく裝飾せる烟草入及灰受のあるを見るも露西亞の皇后はニコタハン烟草非常に好ませらる、然し喫烟は彼の椰子の樹を以て充れたるアルハムブラ內最美の室の觀ある皇后が此の室內のみにてせらる。伊太利皇后は已が自由の位置に等を幸として多量を喫烟す、然れど何時も一人の時のみ之を喫すと。西班牙の攝政皇后は、よほど多量のエジプト烟草を喫烟し。セルビアのナタリエ皇后も、又數多の種類のものを用ゆ。ルマニアの皇后は、只小色を快樂の爲に所持し、コムテ、セ、デパリスは、ハバナのもののみを嗜み、然して其皇女葡萄牙の皇后に常にドレステンより之を求むと。

●米國婦人衛生會の報告　万國衛生會の第七回の集會に提出さる同會報告は、一千八百五十六年以來、其が働の多かる中取分け貧民をして衛生の何者たるを知らしめたると著しるし。今其が一二を揭げんに、小兒及其母に後れ、食物、清潔、なる空氣の必要術も衛生上に關する件々を講述して之を印刷配布し、特に貧兒貧物を惠投を與し、貧兒を公園に引致し、花木投贈又は花見に隙を成しめ、其が歸宅の際には手桶、箒、石鹸等凡そ家內清潔法に必要の品を與へ、又民に貧清水供給法を設けたりと、そは清水あるも住家に持行くに手桶なく又器れ器なきより用水に不便なるものに、夫等を與へ、凡て清水を用ゆふの便を與ふる料紙なりと云ふ。

●サリスベリー公　同公が最近の演舌中大に婦人投票維持論者の注意を引くべき一事のありたり。プリムローズ同盟會の婦人等は、是を其が政治運動上の政綱に特書大書すべきものなりと決せりと云ふ。

●日本全國卒業女學生一覽（第十二回）

●地方之部

●長野縣尋常師範學校女子部　林しやう子　岡部ひろ子　北原さみ子　土屋さく子　清野もと子　田中さだ子　澤さよ子　神谷みね子　矢島させ子　安東すみ子　秋山ちう子　柳田けい子　早川いつ子　丸山すゞ子　勅使河原しゆん子　岩田きく子（合十六名）

●岡山縣尋常師範學校女子部　柴田さく子　吉武松子　赤松仙子　平田はるの子　藤田千代子・平島久子　酒井かず子　日下部たかよ子　柴田笛子（合九名）

●鹿兒島縣尋常師範學校女子部　吉岡のり子　押川すみ子　手島てる子　松田さだ子　酒匂あい子　町田よし子　柿木あい子　森永ゑん子　山口つね子　白石すが子　岸すま子（合十一名）

●長崎縣尋常師範學校女子部　山口たみ子　野本ふじ子　河原さみな　大久保やす子　佐伯てい子　深町させ子　江口あい子　小佐々あい子　酒井ひさの　井崎ゆき子　中山すゑ子　江口つる子　濱崎たも子　筒井たつ子　吉田ゆう子　大岡すま子　井村なみ子　深武しづ子　坂本させ子　長瀬もさ子　上川きく子　日置いち子　山崎やさ子　橫山さみ子　塚田よし子　頴原たみ子　所坂さみ子　原すみ子　橋本いね子　荒木しづ子　河原やす子　片山あい子　櫻井さわ子　村山さも子　中山しげを（合三十六名）

●順正女學校（在備中高梁町）　尾藤すゞ子　高田もと子　磯村すみ子　小野さよ子　尾崎きん子　杉みよ子　岡田まさ子　小泉しづ子　增田ゆう子　中村きん子　門田ゑい子　留持むめ子　片山くめの子　中村まつの子　岡山みか子　大西たみ子　田中ちづよ子　秋山さら子　河合ひさ子　秋山なか子　新田かな子　谷本みつ子　津崎つね子　吉岡ゆふ子　渡邊ゆき子　荒木けい子　高梁さき子　菅はる子　上原はるも子　行本きよ子　馬場きな子　森脇ため子　見尾ひさ子　丹陸むめ子　高橋てい子（合三十五名）

●廣島縣尋常師範學校女子部　味岡はな子　竹内はな子　濱崎さし子　宮崎かう子　秋月まし子　鈴木つる子　平田すゞ子　佐原さだ子　佐治いよ子　太田くに子　船越けさ子　鈴木わか子　伏屋ふき子　仁科かね子　片井ふく子　須子さみ子　鈴木きく子（合四十七名）

品名	十一月
白米（一石付円）	
一等米	一〇、六
二等米	一〇、九
三等米	一一、[illegible]
四等米	一一、九
五等米	一二、五
正米（一石付円）	
中國米	[illegible]
美濃米	一四、五
肥後米	一四、[illegible]
一志米	一三、九
忍館米	一三、九
雜穀（一石付円）	
木貫大麥	[illegible]
上州小麥	[illegible]
竹林麥	二、一〇
梅澤大豆	二、二三
菁椋大豆	二、一八
吟小豆	一、八二
黑胡麻	一、六[illegible]
白胡麻	一、三八
鹽（一石付円）	
赤穗	二、五[illegible]
大[illegible]	一、六
本齋	四、二[illegible]
新齋	四、六[illegible]
醬油（一樽付円）	
居上	[illegible]
極上	[illegible]
上物	[illegible]
中物	[illegible]
並物	[illegible]
味噌（一樽付円）	
地製上白	七、〇〇
同上赤	七、〇〇〇
同紅赤	四、三〇〇
木綿（一反付錢）	
結城地	八五
野田二子	六五
撚二子	六〇
本進齊縞	一、三〇
伊勢改良縞	七〇
同糸入縞	九〇
佐絨縞	五八
生機縞	三九
物產縞	七三
白木綿（二反付円）	
玉鶴	二、四五
絞鶴	三、七九
白の田鶴	四、〇五
若柳	四、四五
兒玉	三、七五
進菊	三、九〇
古新	三、一八
間銘	三、七八
改メ	三、五〇
[illegible]綿（一[illegible]付円）	
上々入金	一三一、〇〇
上入金	一一五、〇〇
並入金	一一〇、〇〇
松入金	一〇六、〇〇
竹入金	一〇三、〇〇
梅入金	九六、〇〇
毛糸（一[illegible]付円）	
コロス齋紙	九二、〇〇
同百日物	八三、五〇
同九十日物	七五、〇〇
鶴印	八五、〇〇
スコッチ上物	八〇、〇〇
同並物	六八、〇〇
同上三本撚	八九、〇〇
同並同	七五、〇〇
製茶（一斤付円）	
山城江州稀大頭	三、五五
同稀頭	二、二〇
同大頭	一、八五
同中頭	一、五五
同中茶	一、〇〇
狹山稀大番	二、〇〇
同稀頭	一、七〇
同大頭	一、三〇
同中茶	一、〇〇
鰹節（十本付円）	
土佐大	二三、〇〇
同小	二一、〇〇
薩摩大	二一、〇〇
同小	一八、〇〇
伊豆上	二四、〇〇
同次	二五、〇〇
城の腰上	二四、〇〇
同次	二一、〇〇
房總上	二〇、〇〇
同次	一八、〇〇
銚子上	一八、〇〇
水戸磐城	一七、〇〇
南部仙臺	一四、〇〇
水油（二斗付円）	
地水	六、三〇
胡麻	八、七〇
荏油	八、六〇
桐油	六、五〇
綿油	七、二五
坂水	七、四〇
石油（一箱付円）	
チヤスター	一、五七
アポース	一、五七
ホーキ	一、六〇
ロレヤ	一、五五

日本評論

每月一回
廿五日發行

第三拾五號、目次（九月廿五日發行）

●日本評論
個人の發達と靈性の三大要領……植村正久
入社情……巖本善治
造化……（詩）……戸川安宅
●雜錄
預言者……
詩人ブラウニング……マツカベ女史
醉魔……デツイチンス
夢眠……芥舟老人穀
小說家の倫理……
●理化新報
數件……
●内外思潮
精神主義と社會主義○北海道移住論○時事新報
●時事
支那帝國と歐西文明の潮流○内外の別果して是の如くなるべきか○天下の眞心を興起して大いに僧侶を痛論せざるべからず
●批評
吉田松陰傳○新日本史○四公畧傳○信任投票の原理及び國會解散の理○史海第四卷○新世帶○美術世界

定價一冊六錢○六冊前金卅三錢○十二冊同六十四錢○市外は一冊に付き郵稅五厘を要す

發行所 東京市麹町區三番町十番地 日本評論社

●十愛社は千葉縣天羽郡大牧塲を所有す

●十愛社は麻布區富士見町三十九番地に土地高燥飼養恰適の搾取塲を設く

●十愛社は新築中假りに麹町區永田町二丁目六十一番地を注文取扱所とす

●十愛社は飼養法に大改良を加へたれば品質精良なるは勿論器具清潔又敏速なり

●十愛社は從來一合の價三錢五厘の處當分二割引二錢八厘とす多量需用者は特別割引をなす

雜誌定價

一冊。	六錢	郵稅。	五厘	（但府内無郵稅）
十二冊。	五拾八錢	郵稅。	五錢	（同前）
半年分	壹圓四拾三錢	府外は		壹圓五拾六錢
一年分	貳圓六拾錢	府外は		貳圓八拾六錢

發行所 東京市麹町區下六番町六番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三

女學書類發行　女學雜誌社編輯

家庭廉價　子供の談

紙數八十葉　郵稅なし　定價十二錢

右は子供の爲にある好きお話にて、母親が言ひ聞かすに結構なる材料なり。第一、田舍音樂師。第二、蝗の君。第三、熊と旅人。第四、風と日の喧嘩。第五、ハイ〳〵とダヾイマ。第六、カンとクッド。第七、王にも勝てる人々。第八、母の愛。第九、柔順なる娘。第十、英雄の所業。第十一、まましき兄妹。第十二、正直な樵夫。第十三、慾婆。第十四、忠義の家來二人。第十五、不思議の新衣裳。第十六、小娘とガマ。第十七、尤も惡き所行。第十八、正直なる小娘。

西洋女禮

紙數六十七葉　郵稅なし　定價十二錢

右は、婦人紹介の事。婦人書面紹介の事。婦人訪問名刺の事。婦人會話の事。婦人案内の事。散步、かざり、宴會の事。食卓上の心得の事。婚姻の事。客を遇する事などに分ち、西洋貴婦人の心得を一と通り平易に解明したり。

女子生理

紙數百九十葉　郵稅なし　定價廿五錢

右は、月經の事。懷姙の事。分娩の事。の三つに分ちて、くはしく女の生理の事を說き。且つ長谷川泰氏が婦人病の元因、村岡範爲馳氏が眼鏡の話と云へる二つの論を附錄としたるもの也。

和畫案内

紙數百廿葉　郵稅なし　定價五錢

右は八木雅辰氏の講述にかゝるものなり

兒育て草

紙數百六十葉　郵稅なし　定價二十錢

右は育兒の心得を問答體にして、人の氣のつかぬ細かなる事迄て一々說明し、母として子を育つる總ての心得を悉とく講述したり。

邦文學

紙數百六十葉　郵稅なし　定價二十錢

右は同志社敎師松山高吉君が講述にして、和文脉の文法、語格を、極めて細密に說明したるもの也。

通信女學第二期生新募集廣告

學問隆盛の今日、女學の進步一と方ならず、凡そ年頃の娘君にして猶發學に就かぬは最と〳〵少なく、既に一家の妻となりし方にても晚學の勉强をさ〳〵年少の人に劣らぬも多し、概して何處の婦女子も皆な學問と云ふとに心掛け凡そ此心掛なきものは當今の女德に欠けしやう思ふに至りぬると明治の代の恩澤にて有がたきとと云ふべし、因りて何處にも女學校の設けあり何處の娘君も茲に入學して日々の進步目覺しきとなるが、既に妻となり母となりて一家子女の掛念ある方々は最早家を出て通學するとも出來ず又家に敎師を引て敎を受るも甚はだ手數なれば今日の時世に斯る御婦人のみ此儘無學に終るべきかと心配する人も少なからず、此類の御婦人は何か家に在りて獨り稽古する工夫なきか又獨學に便利の書物はなきかと屢ば問合せあり、吾社之を以て遂に意を決し、昨年一月通信女學の仕組を新設し、每月一冊の講義錄を出版して、四方晚學の婦人居ながら普通の女學を獨り學びするの便に供へたるが、本年一月に至り、一ヶ年の課業を恙がなく卒へて、快ちよく全科を卒業したるもの七百餘名あり。然るに、去年一月申込の期に後れたる人々も少なからざるを以て、本年更に講義錄を再版し、改めて第二回の習讀者を募る。

敎授科目左の如し。

萬國史、日本歷史、算術、簿記、理化學、生理學、動植物學、作文法文例、料理、歌詠方、女禮、和文讀本、漢文讀本、家政學、(衞生、育兒、看病を合す)裁縫、圖入地理、英學。

敎師は、醫學士三島通良、農學士寺尾熊三、吉田仲子、渡邊辰五郎諸氏其他重もに明治女學校の敎員諸君に委賴し、專ら深切鄭寧を主意とす。

代價一冊前金三十二錢(無郵稅)、半年分前金一圓八十錢、一年分前金三圓五十錢、一切前金に非れば發送せず。

明治二十四年一月廿五日第一號を發兌し、以後每月廿五日に出版して翌一ヶ月中の科目となし、其十二月に至りて全科卒業となす。

東京麴町區下六番町六番地　**女學雜誌社**

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學生

拾六號去ル廿一日發兌セリ

女學生
故鄉の觀察如何

漫筆
閑窓漫言……向陵子
吾人をして大活文章たらしめよ……信水
旅窓涙筆(四感)……天知子
感筆(試肖)……假名子

集錄
四季あそび……(共立女學校)……眇女
箱根の述懐……(明治女學校)……星野ゆう子
春日山所感……(越後高田女學校)……大森みき子
夏草を除く詞……(女子神學校)……森田千子
女子教育……(英文)……石黒よし子

寄書
離別……小松學人

附錄小說 **無想劍**……晴光子

郵稅共一冊六錢　郵券一錢增

女學生全盟各女學校は左の如し
○明治女學校○女子學院○新榮女學校○女子神學校○共立女學校○フェリス和英女學校○頌榮女學校○跡見女學校○立教女學校○成立舍女子部○女子獨立學校○海岸女學校○長榮女塾○東洋英和女學校○青山英和女學校○金城女學校○高田女學校

編輯者星野慎之輔　女學雜誌社發兌

毎月第四月曜日發兌　全國一般無逓送料

史海 第五卷目次

○**聖武天皇**……鼎軒……田口卯吉

聖武天皇の歷史は大に後史の爲めに誤まられたり、玄昉兩宮を亂ると云ふが如きは全く後史の訛傳に出づ、大日本史之を執てより史家妄信喧傳す、此篇悉に其妄を辨ぜり、又天皇が奈良の大佛を造らるゝことの如きは我邦心理上の大變たり、國史多くは輕々看過す、此篇說き得て詳かなりとす、

○**若譲斯哥克歌**(ジェームス、クック)……敬香……大江孝之

○**談武峰**……種竹……本田幸

○**滋賀都趾**……仝……仝

以上の諸詩は我史海前篇所載の事實に關する新作にして、意匠縱橫、運筆自在、眞に傑作と稱すべき也、

○**アルシバイアデス**……柴舟……桑原啓一

アルシバイアデスは義經、韓信の武略。蘇秦、張儀の辯才、權變。業平、潘岳の美貌を一身に兼備せる古今無双の快男子にして、歐洲に於て磊落、豪放小節に拘はらざるを以て、英雄の本色なりと信ずる者が模範とする所の人物なり、世の英雄、豪傑を以て自居るもの宜しく一讀すべし、

一册金拾錢○一ヶ年分(十二册)前金壹圓

東京市京橋區彌左衛門町七番地　**經濟雜誌社**

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●結婚媒妁所

本義塾ハ今般結婚媒妁ノ依頼ニ應ス
但上等ノ嫁貰方澤山有日本橋檜物町角渡邊

〇挿花教授

〇宗教學校へ出張教授ノ向ハ報酬ヲ要セス
隔日外出ヲ厭ハル、方又ハ學校等ノ爲ニ出張教授ノ依頼ニ應ス
〇麹町區飯田町六丁目二十五番地●●近藤嘉之

迎接日

毎火曜日午后三時ゟ
横濱ハ第四土曜切

巖本善治

診察所 住宅

日本橋區大傳馬町二丁目廿五番
外神田和泉橋通松永町二十三番

渡邊泰

女醫

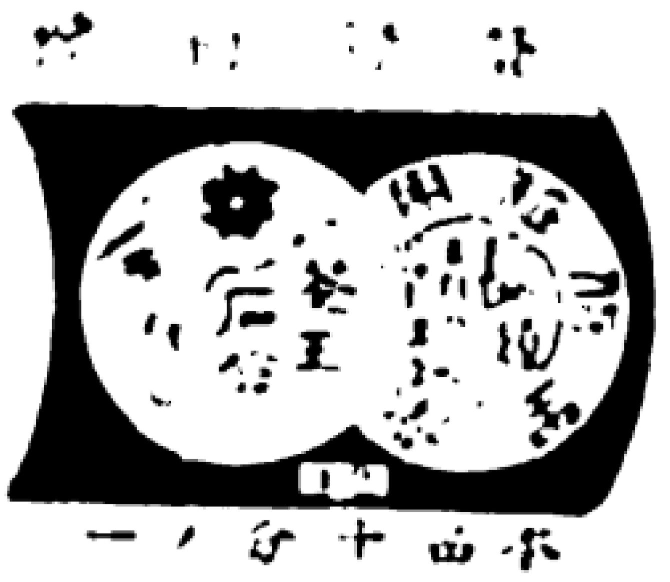
下谷西黑門町廿二番地

荻野吟子

本品ノ販路益々盛大ナルヲ以テ近來類似ノ効能ヲ附シ販賣スル者續々有之候間御愛用諸君ハ篤ト御注意ヲ乞

内務省衛生試驗所御試驗濟

内務省免許　藥劑師　瀬戸末吉先生發明
農商務省前分析課長工學士　高峯讓吉先生試驗證明
東京愛生病院副院長　中村東治先生實驗證明
農商務省前技師　工學士　大久保親誠先生實驗證明
帝國大學教授　理學博士　ドクトル飯島魁先生實驗賞狀
此他各大家の賞狀あるも略す



花王石鹸は皮膚の美麗を增し且つ衛生上大に特効ある化粧品なれば貴顕紳士の浴室鏡窓に缺くべからざる佳品なり

花王石鹸は品質の全良と効能の確實なるは右各先生實驗の上證明せらるゝは勿論既に世上の好評を博し否なくも諸大家より續々賞狀を賜る處の佳品なり

委敷は本品に十四ページの能書を附す

右價御送次第郵送す但し郵劵代用一割增し 市内は勿論各國到所有名の和洋小間物店及賣藥店に販賣仕候

此の花王しやぼんを常に御用ひあれば第一

色を白くし美艶

はだとなり●にきび●そばかす●はたけあせぼたむしの類總て皮膚病一切に妙なり、

定價一個十二錢
桐箱三入卅五錢

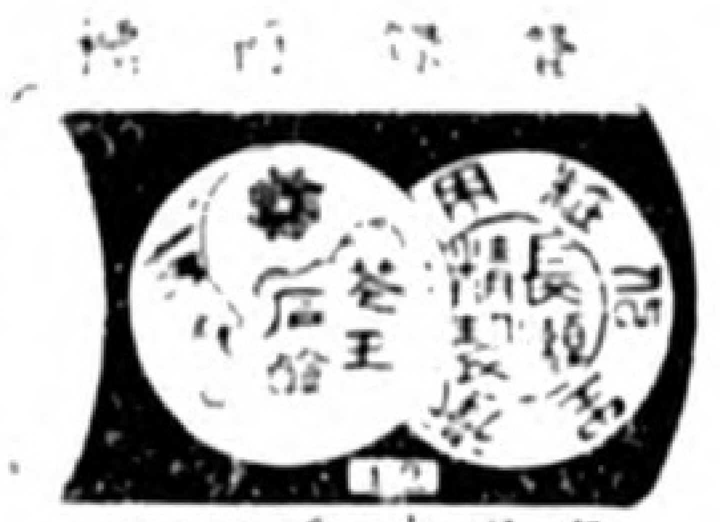
製造發賣元　東京馬喰町一丁目洋物店　長瀬富郎　敬白

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

本品ノ販路益々盛大ナルヲ以テ近來
類似ノ効能ヲ附シ販賣スル者續々有
之候間御愛顧諸君ハ篤ト御注意ヲ乞

內務省衛生試驗所御試驗濟

內務省免許　藥劑師　瀬戸末吉先生發明
農商務省前分析課長工學士　高峯讓吉先生試驗證明
東京愛生病院副院長　工學士　中村重治先生實驗證明
農商務省前技師　工學士　大久保親誠先生實驗證明
帝國大學教授　理學博士　ドクトル飯島魁先生實驗賞狀
此他各大家の賞狀あるも略す


本品十分ノ一

花王石鹸は皮膚の美艶を增し且つ衛生上大に特効ある化粧品なれば貴孃紳士の浴室鏡窓に缺くべからざる佳品なり

花王石鹸は品質の至良と効顯の確實なるは右各先生實驗の上證明せらるゝは勿論既に世上の好評を博し忝なくも諸大家より續々賞狀を賜る處の佳品なり

委敷は本品に十四ページの能本を附す

右價御送次第郵送す但し郵券代用一割增し　市內は勿論各國到所有名の和洋小間物店及賣藥店に販賣仕候

此の花王しやぼんを常に御用ひあれば第一

色を白くし美艶

はだとなり●にきび●そばかす●はたけあせぼたむしの類總て皮膚病一切に妙なり、

定價一個十二錢
桐箱三個入卅五錢

東京馬喰町一丁目洋物店
製造發賣元　長瀬富郎　敬白

○宗教學校ヘ出張教授ノ向ハ報酬ヲ要セス

隔日 **挿花教授** 外出ヲ厭ハル、方又ハ學校等ノ爲ニ出張教授ノ依賴ニ應ス

○麴町區飯田町六丁目二十五番地●●近藤嘉之

診察所　日本橋區大傳馬町二丁目廿五番
住宅　外神田和泉橋通松永町二十三番
渡邊泰

女醫　下谷西黑門町廿二番地　**荻野吟子**

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY